

学校名：中央区立明石小学校

所在地：中央区明石町1-15

校長名：余郷 和敏

児童数192名 学級数8（含特別支援学級2） 教員数14名 職員数10名

※評価基準 1よくあてはまる 2あてはまる

3あまりあてはまらない 4あてはまらない

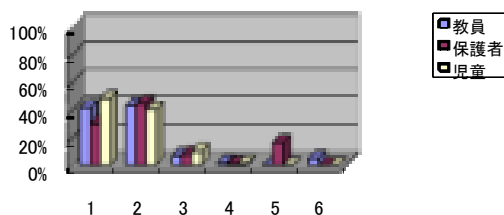
5よくわからない 6無回答

1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1 体力づくり・健康づくりを推進する

児童、保護者、教員とも、肯定的な評価が多く得られた。しかし、教員の自己評価(91.0%)、児童の感想(89.9%)ほど保護者のアンケート結果(75.0%)に強い傾向が見られず、「5.よくわからない」が16.3%ある。校舎改築に伴い、校庭がない状況での学校の取り組みが、十分に保護者に理解されていない面があると考えられる。また、体育指導補助員の存在やドッジボールや金管演奏などの活動も保護者に十分に知らていない面がある。今後、保護者に対し体力づくり・健康づくりについての取組の周知・理解をさらに図る必要がある。

1 体力づくり・健康づくりを推進する

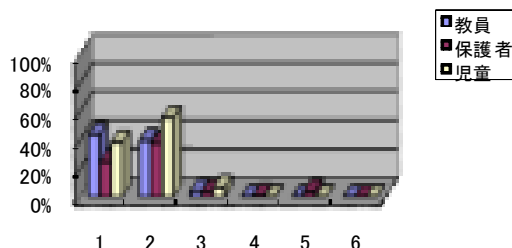


舎改築に伴い、校庭がない状況での学校の取り組みが、十分に保護者に理解されていない面があると考えられる。また、体育指導補助員の存在やドッジボールや金管演奏などの活動も保護者に十分に知らていない面がある。今後、保護者に対し体力づくり・健康づくりについての取組の周知・理解をさらに図る必要がある。

重点目標2 人とかかわる心をはぐくむ

重点目標1とほぼ同様の結果を得た。児童(93.3%)、保護者(87.8%)、教員(95.2%)とも肯定的な評価が多かった。しかし、保護者の一部から幼稚園や杉の子学級、レインボーハウス等との交流について「5.よくわからない」が9.2%ある。幼稚園との交流は、校舎改築のため分離されたことが影響していると言える。通常学級、特別支援学級、幼稚園の3つの存在が本校を特色づけていると考える。新年度に向けて、意図的・計画的な交流活動を立案する必要がある。

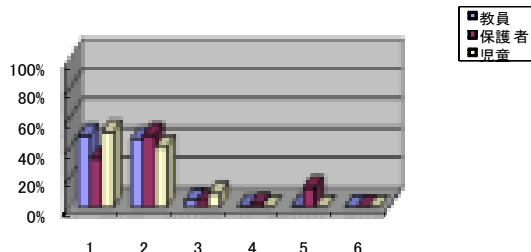
2 人とかかわる心をはぐくむ



重点目標3 確かな学力の向上を図る

重点目標1及び2とほぼ同様の結果を得た。児童(91.0%)、保護者(81.2%)、教員(91.0%)とも肯定的な評価が多かった。しかし、保護者アンケートでは「5.よくわからない」が13.1%あった。具体的には、校内での読書活動、複数教員による少人数指導、校内における言語環境の実際についてわかりづらいようである。さらに情報発信に努め保護者・地域の理解を得る必要がある。

3 確かな学力の向上を図る



2 重点目標以外の自己評価における達成状況

今年度は重点目標の他、全方位的な18の観点をもとに、教員、児童、保護者アンケートを実施した。

その結果、児童の肯定的な評価が8割を超えていて（9項目は9割以上）、児童が一人ひとりが十分に満足して学校生活を過ごしているということがわかる。しかし、「1 勉強は好きですか」「2 給食は残さず食べますか」の2項目は7割台である。「1. 勉強は好きですか」は昨年度に引き続いて7割台である。「13. 毎日勉強していますか」の設問に対する肯定的回答率が9割を超えた。

保護者アンケートからは、「3. 学校はコンピュータや図書室を十分活用している。」(54.7%)「10. 学校は英語学習など特色を生かした教育をしている。」(76.9%)の「11 ボランティア活動」(74.5%)「12 子どものなやみ・問題に対する相談」(75.9%) 肯定的回答率が低かった。

3 今後の改善方策

以上の自己評価の分析から、本校の教育を保護者にどのようにアピールしていくかは重要な課題である。今後改善すべき課題と改善のための方策を次の項目で検討していく。

- 子どもの学力向上に向けての授業改善を図る。
- 学習に対する子どもの意欲の向上を図る。
- 教師自身の資質の向上に努める。
- 講師や指導補助員を活用した取組を推進する。
- 杉の子学級、幼稚園等との交流をさらに図る。
- 子どもの体力向上、健康づくりにさらに取り組む。
- なやみ・不安等に対して子どもに寄り添う教師、校内体制を確立する。
- コンピュータや図書室を活用した学習の改善を図る。
- 英語学習の改善を図る。
- 保護者がさまざまな教育活動を参観する機会を増やす。
- 学校公開の充実と特色ある教育活動への保護者の参加を図る。
- 学校からの情報発信を工夫する。